

イタリアの哲学者ジョルジョ・アガンベン
は、近著『人間の声』において、声（音声）
の概念を練り上げるとともに、呼格について
の興味深い考察を提示している。注目するべ
きは、その中で、ジャック・デリダによるグ
ラマトロジーのプロジェクトが批判的に考察
されていることである。今回、アガンベン本
人とも親交の深いトニ・ヒルデブランド氏
（ベルン大学）をお招きし、この未邦訳の新
著を紹介するとともに、グラマトロジー、音
声、そして呼格について総合的に討議する場
を設けたい。

- **司会：國分功一郎**
- **日時：2024年1月15日（月）
17:00-18:30**
- **会場：東京大学駒場キャンパス
18号館コラボレーションルーム2**

トニ・ヒルデブランド氏公開セミナー ジョルジョ・アガンベンの新著 『人間の声（*La voce umana*）』を読む ——グラマトロジーの批判

【講演者】

トニ・ヒルデブランド (Toni Hildebrandt) 氏

ベルン大学研究員（アドヴァンスド・ポスドク）。同大学にて研究プロジェクト「エコロジカルな責務を媒介する」(Mediating the Ecological Imperative)のコーディネーターを務める。2014年にバーゼル大学で美術史博士号を取得（ヴォルフガング・ラチエン賞受賞）。バーゼル大学およびニューヨーク大学のゲスト講師を務めるほか、数々の助成金を得てローマ（Istituto Svizzero、2013～17年）やミュンヘン（Zentralinstitut für Kunstgeschichte、2019年）、ベルン（Walter Benjamin Kolleg、2020～21年）に滞在する。単著に、*Entwurf und Entgrenzung. Kontradispositive der Zeichnung 1955-1975 [Projection and Expansion: Counterdispositif of Drawing, 1955-1975]* (München, Fink, 2017)。共編著に、*PPPP: Pier Paolo Pasolini Philosopher* (Milan, Mimesis International, 2022)など。

主催：東京大学東アジア藝文書院 (EAA)

共催：東京大学共生のための国際哲学研究センター (UTCP)